『女神の末裔――日本古典文学から辿る〈さすらい〉の生』　目次

I

女神の末裔――『更級日記』菅原孝標女

序　女神の時代――1
耽溺する少女たち　女神の末裔として　女が書いた時代

1　東から西へ――12
東の世界と西の世界　喪われた女たちの世界――東の世界から
阿弥陀の救済――西の世界から　女人往生の問題

2　大嘗会御禊の日――27
御禊の日の問題　摂関体制期の御禊

3　皇統の女たち――37
皇統の女四人　一品宮禎子内親王（＊あまてる御神　＊すくう神）
伊勢斎宮嬉子女王　祐子内親王・脩子内親王

4 初瀬詣で――女神との交感 71
孝標女の初瀬詣で　観音信仰　プレ斎王たちの初瀬　験の杉
狐神からダキニ天へ　神々の連環する世界
5 〈ひとり〉の世界へ 95
● 鎮魂と女 104

II さすらいを生きる――『とはずがたり』後深草院二条

1 語る女 112
川口善光寺　五人の遊女　二条の〈語り〉
2 後深草院の世界 124
宮廷に生きて　二条の〈父と夫〉　構築された遊女性
3 二条の諸国行脚 (1) 145
江ノ島にて　一人の旅　小野小町の落魄のイメージ
熊野の霊夢――怨霊となった後深草院
4 鎮魂する女 163
女の聖性と穢れ　二条の〈さすらい〉　〈語り物〉の世界から

後深草院の妻と娘

5 二条の諸国行脚 (2) —— 181
二条は善光寺へ行ったのか　二条が訪ねた寺社

6 物語の終りに —— 195
後深草院との対話　二条のその後 — 一遍との奇妙な一致
終りに — 女という現象

Ⅲ

〈あらぬ世〉を生きる —— 『竹むきが記』日野名子

1 〈あらぬ世〉の始まり —— 212
〈あらぬ世〉の始まり　〈あらぬ世〉をめぐって
時間の循環 — 『竹むきが記』上巻の世界

2 〈あらぬ世〉に生きる時間 —— 230
名子の嫁入り　名子のさすらい — 『太平記』の世界　『太平記』の女たち

3 〈ひとり〉の世界 —— 254
『竹むきが記』下巻の世界　名子の時間　〈ひとり〉の世界

4 さすらう王、光厳院 —— 272
語らない女　〈王〉のさすらい　さすらう〈王権〉　〈王権〉のゆくえ

女神の消滅——説経『かるかや』

1 母殺し姉殺しの物語 …… 284
プロローグ　重氏の出家と北の方　父重氏の遁世
2 母殺しの物語 …… 304
母殺し　女人禁制と遁世
3 姉殺しの物語 …… 319
姉殺し　結び——男たちの悲劇
後書き …… 330
年表 …… 332